

令和7年度 第3回 柏市上下水道事業運営審議会

1 開催日時

2025年10月7日(火) 14時00分～17時00分

2 開催場所

柏市上下水道局庁舎 4階 401・402会議室
柏市千代田1丁目2番32号

3 出席者

(1) 委員

落合委員(会長)、堀田委員(副会長)、佐藤委員、谷委員、秋元委員、石井晶子委員、石井一宏委員、大川委員、川端委員、中川委員、杢富委員、山崎委員

(2) 事務局

飯田上下水道事業管理者、小川理事、伊藤次長兼給排水課長、須藤総務課長、吉田経営企画課長、佐藤料金課長、新井下水道工務課長、深山施設管理課長 他

4 議題

(1) 柏市上下水道事業ビジョン 実現方策の検討(その2)

5 報告事項

(1) 企業会計の仕組みと令和6年度決算の概要

6 議事

議題 柏市上下水道事業ビジョン 実現方策(その2)

意見(落合会長)

広域化の説明について、今回の書き方で良いと思う。

質疑(川端委員)、回答(事務局) 下水道工務課

Q. 道路陥没の主な発生要因が分かれば教えてほしい。

A. 柏市において八潮市で発生した事故ほど大きな道路陥没は発生していない。原因は、下水道管の老朽化によってひび割れた管内に土砂が流入し、地下に空洞ができることである。柏市で起こる大きな規模の道路陥没は道路表面は直径50cmくらいで、地下は1mくらい空洞が広がっていることもある。

質疑（川端委員）、回答（事務局）水道工務課

Q. 耐震性のある管とは、どのような機能を持っているのか。

A. 耐震性のある管とは、管の継手部に伸縮可とう性や抜け出し防止機能が備わっているものを指す。こうした機能を持つ管を「耐震管」として位置付けている。

質疑（川端委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 料金回収率の給水原価に補修費用は含まれているのか。

A. お見込みのとおりである。

質疑（川端委員）、回答（事務局）総務課

Q. 導入されるエコカーとは、具体的に何を指しているのか。

A. 電動車と表記し、ハイブリットカーや電気自動車等のことを指す。電気自動車を導入する際は充電ポートが必要になるため、上下水道局内の駐車場に整備する。

質疑（川端委員）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 国交省による老朽管の改修や複線化に対する補助拡大の発表を受けて、老朽化対策の計画に変更はあるか。

A. 改築については従来より交付金を受けており、現状変更はない。

質疑（石井一宏委員）、回答（事務局）経営企画課、下水道工務課

Q. 目指す方向として矢印が記載されており、5年後、10年後の目標があるが、下水道事業の老朽化対策の指標は、目標が現状より悪いものとなっており、目指す方向と目標が整合していないが、これはなぜか。

A. （経営企画課）目指す方向の矢印は下げるべき指標なのか、上げるべき指標なのかを示している。目標数値は現状より悪いものとなっているが、老朽化は何も対策をしなければどんどん数値が悪くなっていくものなので、それを対策によって抑えることを示している。

Q. 指標の詰まり発生件数の目標はどのようにして算出したのか。

A. （下水道工務課）道路陥没箇所数、詰まり発生件数、苦情件数は、過去10年間の平均値を目標としている。

質疑（石井一宏委員）、回答（事務局）施設管理課

Q. 浄水施設の耐震化率について、5年後は現状と同じだが10年後に急激に増加するのはなぜか。

A. 日本水道協会が示した算出方法により、各系統の浄水施設内の施設がすべて耐震化された場合に耐震化済みとして計上する。第3水源池はろ過機の耐震化が済んでいないため現在は含まれていないが、今後耐震化して数値が上がる予定である。

質疑（石井一宏委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 水道の料金回収率について、100%を大きく超えておりとても良いと思うが、見方によっては水道料金が高いともいえるのではないか。

A. 料金回収率は同規模事業体に比べて良く、健全経営により黒字化出来ている。後ほど説明するが、ここを出した収益をインフラ整備の費用に充てている。そのため、ある程度の黒字は必要であると考えている。

質疑（中川委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 目標は事業を行った時の予測を記載していると思うが、目指すべき理想としての数値も示したほうがよいのではないか。

A. 表し方について、工夫する。

意見（佐藤委員）

アクションプランは最終的にホームページに公表され、市民が目にすることになると思うので、もう少し分かりやすくしたほうが良いのではないか。目指す方向の矢印の向きや目標と目指すべき理想などを伝わりやすくする必要があると思う。

質疑（谷委員）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 下水道の老朽化対策の目標が過年度の平均値である旨を記載すれば分かりやすいと思うがいかがか。

A. 分かりやすい書式、書き方について今後検討を行う。

質疑（堀田副会長）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 管きよの点検、調査結果を基に計画を立てて改修するというプロセスはアクションプランに反映されているか。その対応のスピード感が分かるような書き方にしてもよいのではないか。下水はこのプロセスかと思うが、水道はどうか。また、下水道の管路調査実施延長の10年後目標が623kmとなっているが、これは柏市の下水道管路総延長、約1200kmのうち半分という認識で間違いないか。

A. 下水道は管の中をカメラで調査している。水道は常に管内に圧力がかかっており内部を調査できないことから耐用年数もしくは期待寿命などで更新している。下水も耐用年数で更新できればよいが、下水道管は地下深くに埋まっていて改築に巨額の費用を要するので、調査した上で対策が必要な箇所を改築している。15年で管路調査が一回りするように計画を立てて実施している。表に示している管路更新延長は調査の後、改築の必要があると判断され、改築する管路延長であり、すべての管路が対象ではない。

質疑（落合会長）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 下水道事業の老朽化対策の目標はこれでいいのか。

A. 苦情件数と詰まり発生件数は、R6実績と目標値の乖離があるので検討の余地があると考えている。道路陥没箇所数で目標としている12件は、月単位でみると毎月1件ずつ発生するペースである。道路陥没は降水量が多い時に発生しやすく、環境にも左右されることからこれ以上目標件数を下げることは厳しいと考えている。

意見（落合会長）

これを見ると苦情件数が増えてもいいというように誤解されるおそれがあることから、数値を再考してほしい。

質疑（佐藤委員）、回答（事務局）施設管理課・下水道工務課・給排水課 ・水道工務課

Q. 老朽化更新（耐震化）という書き方でいいのか、老朽管更新・耐震化のほうが良いのではないか。

経年化年数という表記は正しいのか。

管路更新延長が急激に伸びているのはなぜか。大口径の難しい工事が終わり、中小口径の容易な工事に移っていくことから伸びが良くなると推測している。

面整備の整備率の目標が10年後においても半分というのは、見方によっては低いように思うので、説明があると良いのではないか。

応急給水訓練の実施回数の目標がR6実績より下がっているので、表現を工夫したほうが良い。

D X導入数が1件というのは分かりにくいと思う。他と同じ書式に合わせたいという気持ちもわかるが、多少柔軟にしてもよいのではないか。

ガソリン車をエコカーにするのは本当に省エネになるのか。太陽光発電のほうがふさわしいのではないか。

配水量1 m³当たりの電力消費量を減らすことは水質の悪化につながりかねないと思うが、水の循環を減らすのではなく、新しい機器の購入によるものという理解でよいのか。

A. (施設管理課) 老朽化対策における法定耐用年数超過設備率について、数値が低いほうが良い指標ではあるが、法定耐用年数を超過しても使用できないわけではなく、点検や部品交換によって長寿命化を目指しているため、多少高い数値が出てしまう場合があることもご理解いただきたい。

(下水道工務課) 下水道の管路更新延長は、委員のご指摘の通り、先に大口径の管きょを改築し、これから中小口径の管きょが増加し、費用の減額や進捗の向上が見込まれるところである。雨水の面整備の整備率について、雨水管整備はさまざまな埋設物がある道路に、非常に大口径の管きょを入れる必要があり、費用も掛かることから進捗が緩やかになっている。毎年 2.5~3km ほど進める予定であり、財政的にこのペースでしか進められないため、市民の方々には機会を捉えながら説明していきたい。

(給排水課) 応急給水訓練の実施回数の目標は、年 3 回実施を基本としており、令和 6 年度は石川県の地震被害を受けて突発的に需要が高まり回数が増えたものである。今後の予定は未定であるが、基本 3 回 + 地域要請分 α 回 = 計 $\bigcirc$ 回と言ったような書き方を工夫する。

(水道工務課) 水道事業では老朽管を耐震管に更新し、老朽化対策と耐震化を同時に実施することから、そのような書き方になっている。書き方については工夫する。

質疑 (中川委員) 回答 (事務局) 下水道工務課

Q. 下水道施設の耐震化を事業費で管理しているが、これで進捗が把握できるものなのか。

A. 貯留場、排水ポンプ場の整備は、複雑かつ様々な工事によって改築していくものであることから、最も分かりやすい指標が事業費であると考えている。

Q. この指標だとお金をかければかけるほど良いというように誤解されてしまうおそれもあるので、説明を加えていただきたい。

A. 次回までに検討する。

意見 (落合会長)

今後物価上昇によって想定より事業費が増加したとき、この指標が 100% を超えてしまう可能性もあるので再考いただきたい。

意見 (落合会長)

重点施策管理シートについても、広域連携の書き方を冒頭でご説明いただいたように修正いただきたい。

質疑（佐藤委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 水質の適正管理におけるアクティビティに、水質検査が漏れているのではないかと。

A. 水安全計画の運用・見直しに水質検査が含まれていると考えている。分かりづらければ表現を変えたい。

意見（佐藤委員）

外部の人にも分かるように書き方を工夫してほしい。

質疑（佐藤委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. アクションプランと指標と、重点施策管理シートは重複している部分が多いと思うが、使い分けはどのように考えているか。

A. 今回は上下水道事業ビジョンを本編と資料編に分けて作成することを考えている。本編には重要なこと、市民の方々の興味があると思われることを記載し、詳細なバックデータを資料編に記載することを考えている。重点施策管理シートは本編、アクションプランは資料編に記載を予定している。

報告事項 企業会計の仕組みと令和6年度決算の概要

意見（佐藤委員）

分かりやすく良い説明だと思う。

質疑（落合会長）回答（事務局）経営企画課

Q. 水道・下水道ともに黒字であることから料金改定は必要ないということか。

A. 次回の審議会で検討結果をお示しする。一般的にインフラ整備に費用がかかるため、料金改定をしてインフラ整備を進めるか、現行料金でできる範囲で実施するか、その選択が必要な時期がいずれはくると考えている。

7 傍聴

傍聴者 1 名